

手術後腸閉塞に罹患した患者様へ「お知らせ」と「お願い」

当院では下記の研究を実施しています。
皆さまのご協力をお願い申し上げます。

研究課題名

腸閉塞治療法と社会復帰に関する研究

研究の対象

手術後腸閉塞に罹患した患者様

研究の意義・目的

癒着性腸閉塞の治療には保存的治療（胃管、イレウス管）と手術療法があり、従来よりその適応については論じられてきておりますが、各施設での治療法の選択に差異があることが現状であります。

今回その適応について労災病院共同研究を通じて患者様の社旗復帰までの日数に与える影響を検討し早期社会復帰への支援の一助となることを目的と致します。

既存研究によれば癒着性腸閉塞症の保存的治療法において胃管 VS イレウス管の使用による比較はなされているものの多くの RCT があるわけではなく、臨床の現場においてイレウス管が非常に有効であった症例にしばしば遭遇するのも事実です。また、保存的治療から手術治療に移行するタイミングに関しては一定の見解があるもののその明確な基準は存在しておりません。

よって本研究を通じて各施設間の治療内容を知ることで、何らかの癒着性腸閉塞症の治療基準およびその患者様の社会復帰に与える影響を医学会全体に発信できる可能性があると思われれます。

研究方法

患者様自身にご負担を強いるものではありません。治療中のデータおよび経過状態を臨床データとして提供して頂きます。提供される情報は個人が特定できないように匿名で行います。また参加の辞退はご自身の裁量であり申し出て頂いても結構です。もちろん辞退しても治療上不利益は発生致しません。

研究期間

研究開始予定日：2014年 4月1日

研究開始予定日：2015年 3月31日

連絡先

本研究に関してご質問等がございましたら、下記の連絡先までご連絡ください。

〒222-0036

神奈川県横浜市港北区小机町 3211

横浜労災病院 外科部長

篠藤 浩一

電話番号：045-474-8111（代表）

平成 26 年 11 月 11 日